地域がつくる暮らしやすさ

Part 4

郊外計画開発住宅地

内陸の丘の手に形成された成熟の進むニュータウン

田園都市沿線（青葉区）　港北ニュータウン（都筑区）
ドリームハイツ（戸塚区）　湘南桂台（栄区）

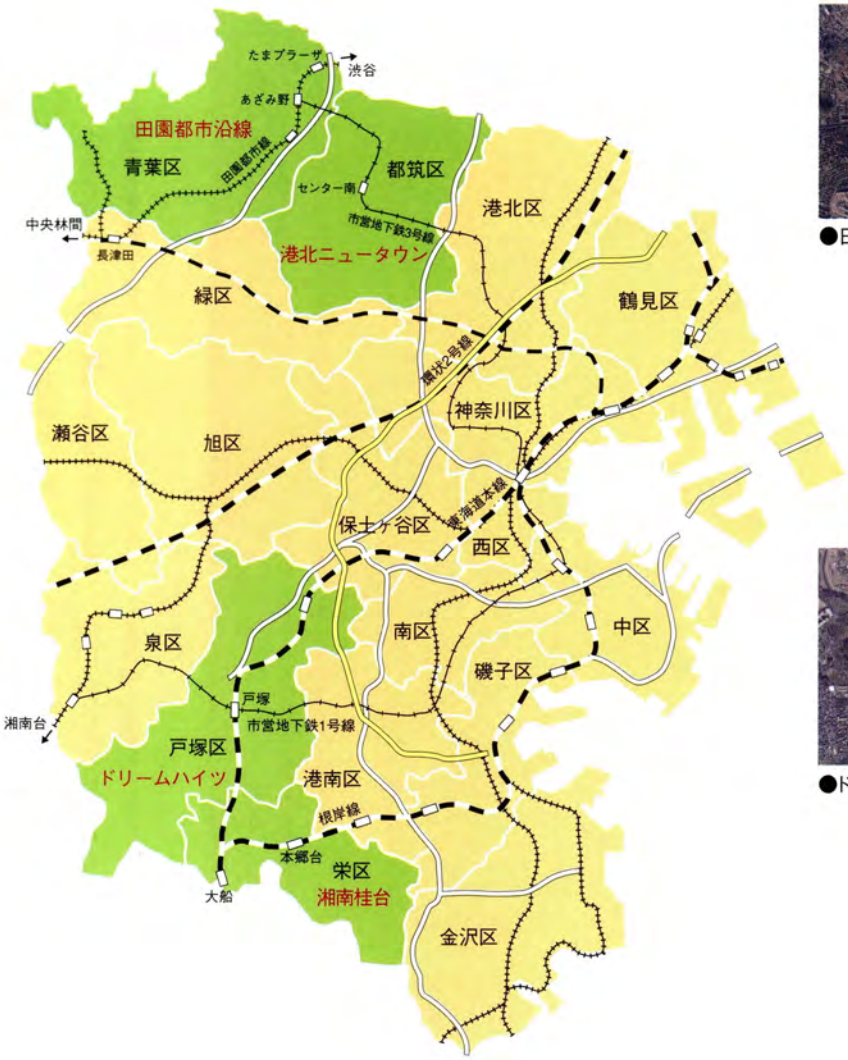
昭和40年代以降、環状2号線から外側の横浜市郊外部には続々と市街地が形成された。“ニュータウン”と呼ばれ、新しい郊外型ライフスタイルの情報発信エリアとしてもてはやされた住宅地である。これら住宅地群はおおむね次のような特徴を持っている。

①東京への一極集中が進む中で、横浜都心部の郊外というよりも東京の郊外として開発された側面が強い。

②中高層の集合住宅地や低層一戸建ての住宅地などが、区画整理等の手法によって大規模かつ計画的に、また土地の原地形そのものを改変してしまうかたちで造成されている。

③一斉に建設され、同時期に同世代の住民が入居したため、地域内での世代循環がうまく行かない場合、地域全体がそのまま急速に高齢化してしまう。

ここでは、横浜内陸の丘の手に展開されたニュータウンが現在どのような成熟段階を迎えているのか、東京都心からの距離や、一戸建てや集合住宅といった居住形態に応じて、それぞれの街が抱える課題と今後のまちづくりについて考えてみたい。



●田園都市沿線

●港北ニュータウン

●ドリームハイツ

●湘南桂台